

連載　（供覧）いはひまつりのみち

宗教は人を殺し、祭祀は人を生かす  
世界平和のための祭祀を復興させる

## 第二十二回　　善と悪

南出喜久治（令和7年7月15日記す）

ちちははと　とほつおやから　すみめおや　やほよろづへの　くにからのみち  
(父母と遠つ祖先から皇御祖八百万神への国幹の道)

ライプニッツの弁神論（神義論）といふものがあります。世界において諸悪が存在することは、創造者であり全知全能のGodの善性とは矛盾しないことを説いたものです。

悪は、キリスト教ではサタン、イスラム教ではシャイターン、仏教では魔羅（マーラ）と言ひます。

悪の現実性を認めるのであれば、Godの全知全能と矛盾し、創造神が悪をも創造したことになり、善神であることを否定することになります。

そして、最終的にはGodの摂理によって縫製して解決すると説いたところで、どうしてそんな迂遠なことにして世界を混乱させるのか、しかも、それがいつになるのかについて答へることができず、明らかに詭弁なのです。

また、悪は存在せず、悪と認識するのは迷妄ないし無明の所産であるとする仏教の場合は、出家といふ現実逃避を勧め、煩惱を滅却して涅槃に至ることを説くだけのもので、悪の現在性を無視しては人々の不安の解決にはならず、余計に世の中を不安にさせて混乱させるだけです。悟りといふのは、本能を去勢することに他ならないないので、悪そのものです。

このことについて語るためには、善と悪の区別が明確でなければなりません。二項対立としての区分です。しかし、ギリシア哲学の一派であるストア学派や仏教では、善悪二元論を取らずに、善性、悪性、無記性の三分法です。無記とは、善でも悪でもないものです。シャカが善悪のいづれであるかについて答へなかつた領域です。

仏となり悟りを得て衆生済度できるのであれば、悪を無くすことができる筈です。これでできないのであれば、悟りには力がないことを認めることになります。いくら屁理屈を言つても悪をなくせないのであれば仏ではないのです。

また、無記を認めることによつて、そもそも善とは何か、悪とは何かが不明になつてしまつたのです。

まひます。

祭祀の立場では、本能に基づく方向が善であり、本能に逆らふ方向が悪ですので、本能適合性があるのが善、本能適合性に反するのが悪です。そして無記は悪ではないので善です。

ところで、ストア学派といふのは、キプロスのゼノンが開祖とされる学派です。アキレスと亀などのゼノンの逆説で知られるエレアのゼノンとは別人物です。

禁欲的、克己的といふ stoic の語源となつたストア学派では、善といふのは、有徳であることと、自然（本性）に従つて生きることが善であり、これに反するのは悪であると説きました。自然に従つて生きることを知る智恵が賢者の智恵であるとし、それを実践することを説いた実践哲学です。

この自然（本性）といふ意味が定かではありませんが、これを人間に備はつた本能とその本能の発露である祭祀を意味するのであれば、これによつて生きるといふことは、まさにここで説いてゐる祭祀そのものになります。

現在、哲学と称するものは、その殆どが觀念哲学であり、実践哲学ではないので実生活にも人生の指針としても全く役に立ちません。しかも、余りにも多くの哲学思想が登場したために、複雑怪奇となつて余りにも些末な議論に終始することとなり、哲学者と称する者が、このカオス状態の哲学界に新規参入して名乗りを上げるとすると、極端で奇を衒つたこと言はなければ、注目されないといふビジネス事情があるためです。